

ポスター発表

161

NHK『やさしい日本語』を中等教育での課外授業に用いる利点とその工夫

木林理恵(リオデジャネイロ州立大学、東京外国語大学Global Japan Office)

Elisa Figueira de Souza Corrêa, Universidade Estadual do Rio de Janeiro

NHK『やさしい日本語』を中等教育での課外授業に用いる利点とその工夫

木林理恵

リオ・デ・ジャネイロ州立大学／東京外国語大学 Global Japan Office

エリーザ・フィゲイラ・デ・ソウザ・コヘア

リオ・デ・ジャネイロ州立大学

〔キーワード〕 NHK『やさしい日本語』、中等教育、課外授業、話題シラバス、人的資源の活用

〔要 旨〕

本稿は、リオ・デ・ジャネイロ州立大学文学部日本語科、及び、東京外国語大学 Global Japan Office が実施した中等教育での課外日本語コースについて、使用教材に焦点をあてた報告である。NHK『やさしい日本語』は話題シラバスに基づいており、ウェブ上にあるため誰でもアクセスしやすい、スキットの内容が良く生き活きた日本語に触れられるという利点がある。一方で、学習項目を定着させるための練習やコミュニケーション活動が少なく、教室では使用しにくい面があるが、それらはティーチング・アシスタントや日本人ボランティアといった人的資源を活用することで補った。話題シラバスに基づいた教材は、タスクを加えることでより使いやすくなると思われる。使用教材を決める観点はいくつかあり、コース開始前に最善の教材を採用できるとは限らない。コースを運営しながら教材の利点を生かし欠点を補う仕組みをつくることが大切である。

1. はじめに

本稿では、リオ・デ・ジャネイロ州立大学文学部日本語科、及び、東京外国語大学 Global Japan Office が実施した中等教育での課外日本語コースについて、使用した教材に焦点をあてて報告する⁽¹⁾。多くの日本語教材はその教材のシラバス・デザインに基づいて作成されており、どのような教材を使用するかはコースの要であるシラバス・デザイン（田中・斎藤 1993）にかかわるため、教材の使用例を具体的に紹介することで、実施したコースの概要を示すことができる。また、中等教育では、しばしば教材開発が必要となり、独自に作成した教材を使用している教育機関も多いと思われる（日本語教育学会 2016）。既存の教材をコースに合わせて使用した際の工夫を述べることで、コース設計時の教材選びに重要なこと、また、コースの運営方法についても考察したい。

2. 当プロジェクトによる中等教育課外日本語コースの概要

リオ・デ・ジャネイロ州立大学（以下、州立大学）文学部日本語科では、リオ・デ・ジャネイロ州の中等教育に日本語を普及することを目的として、ふたつの中等教育機関に課外の日本語コースを開設した。一箇所は、リオ・デ・ジャネイロ州立大学付属校（以下、CAp-UERJ）であり、もう一箇所は、国立技術教育センター（以下、CEFET）高等部である。これは、「Preparando mais jovens para o futuro」というプロジェクトとして州立大学に申請しているもので、教職課程の学生が教育現場での訓練を積むことを目的として掲げている。このプロジェクトでは、対象の学生1名に奨学金が給付される。

授業は、CAp-UERJではプロジェクトの奨学生が担当した。CEFETでは日本語ネイティブ教師が主に担当し、ティーチング・アシスタントとして州立大学の教職課程の学生が参加した。当プロジェクトによる中等教育での課外日本語コースの概要を表1にまとめる。

表1 当プロジェクトによる中等教育での課外日本語コースの実施概要

	CAp-UERJ	CEFET
対象	中学2年生から高校3年生（14-18才）	高校1年生から4年生（15-18才）
レベル	入門から初級	入門から初級
クラス数	2クラス（月曜クラス・木曜クラス）	2クラス（午前クラス・午後クラス）
週当たりの授業数	週1回	週2回（火曜日・金曜日）
実施期間	2016年10月から12月まで	2017年3月から11月まで
実施時間合計 （1クラスあたり）	16時間	72時間
登録学生数（全体）	15名	40名
修了学生数	—	20名
授業担当者	プロジェクトの奨学生	州立大学の日本語ネイティブ教師
教材	NHK やさしい日本語（教科書のみ）	NHK やさしい日本語（ウェブと教科書）

州立大学の教職科目という側面から見ると、コースの位置付けはそれぞれ異なっている。CAp-UERJのコースは学生が実際に教壇に立って研鑽を積む場であり、大学教員は学生への助言や、授業の補助を行う。CEFETのコースは、学生が大学教員の授業を見学したり補助したりすることによって学ぶ場であり、参加する学生には見学レポートの提出が義務付けられた。

3. CEFET でのコースにおける『やさしい日本語』の使用例

本章では、修了証を発行した CEFET でのコースについて、教材使用例を中心に報告する。

3.1 NHK 『やさしい日本語』の概要

NHK WORLD RADIO JAPAN では、『やさしい日本語』という日本語講座が17言語で提供されている（URL: <https://www.nhk.or.jp/lesson/>）。NHK WORLD の放送枠で1課ずつ放送されるほ

か、ポッドキャストでの配信も行われている。『やさしい日本語』の概要を表2に示す。

表2 NHK『やさしい日本語』の概要

提供	NHK WORLD RADIO JAPAN
形態	ウェブ教材（教科書のPDF 及び冊子あり）、及び、ラジオ番組の配信（ダウンロード可能）
言語	全 17 言語、ポルトガル語版がある。 https://www.nhk.or.jp/lesson/portuguese/
レベル	初級後半まで（全 48 課）
サイトの構成	- 各課のメインページには、スキットの動画、スキットの文字資料と翻訳、文化紹介がある。 - メインページから、主要な文法項目の解説、文法や重要表現の練習、オノマトペ紹介のページに移動することができる。 - メインページの他に、ひらがな・カタカナ、単語帳、単語テスト、文法項目のまとめ、学習クイズのページがある。
その他	文字の練習シートや教科書版の冊子を PDF でダウンロードできる。

シラバス・デザインの観点から、この教材は話題シラバスを重視していると思われる。文法項目が基本的に初級前半から後半へと配置されていることから、構造シラバスの要素も考慮されていると考えられるが、主な学習項目は、各課のスキットで扱う話題に関する表現である。例えば、買い物を扱う課で「ケーキがいっぱいありますね」という表現があり、「あります」について説明しているが（第7課）、ここで「います」は出てこない。「います」は別の課で、学校の場合で使われ、説明されている（第10課）。文法を重視するならば、「あります」と「います」をまとめて説明するだろう。また、各課のスキットが聴取者に興味を持たせるような話に作られていることから、話題を中心に構成された側面が強い教材だと考えられる。

そして、このサイトは、独習を想定して設計されたものと思われる。例えば、文法の解説や単語の意味は、リンク先にとんでから読むようになっている部分が多い。一覧性よりは、個別に細かく見ることが重視されている。

3.2 教材選びにあたって重視した点

コースを始めるにあたって NHK『やさしい日本語』を主教材に採用した理由は、大きく以下の2点である。

1. ウェブ教材という形態の利便性

ウェブ上で一般に広く公開されているため、コース運営側からしてみれば、教材費や著作権の問題が起こりにくい。一方で、受講者側にとっては、授業を休んだ場合でもウェブにアクセスして自習することができ、心理的な負担が少ないことが考えられた。正規ではなく課外のコースであるため、教材費がかからないことや生徒が欠席した場合にフォローしやすいことを優先した。

2. コース設計へのあわせやすさ

当コースの期間を一年と見積もっていたことから、この教材で初級の内容がコンパクトに扱われていることも利点であった。教材を一通り勉強すれば、コース修了時には日本語初級の知識をある程度持つことが可能になると考えられた。

その他、この教材を実際に使用した教師から、若い学習者には絵やストーリーが親しみやすく、使いやすいかった、という意見があったことも参考になった。もちろん、ポルトガル語での解説があることも利点であった。

まとめると、コース開始前に重視した点は、①課外コースに利用しやすい教材であること（受講者が手に入れやすく自習しやすい）、②短期間でまとまった日本語の知識を身に付けやすい教材であること、の2点である。

3.3 CEFET 高等部での課外日本語コースの概要

CEFET では、高等部の全在学学生を対象に受講者を募集し、抽選で 40 名の受講者を決めた。全 2 クラス（1 クラス 20 名）で午前と午後に分かれており、1 回 2 時間、週 2 回の通年コースである。2017 年は、3 月から 11 月まで、全 36 回（72 時間）の授業を行った（2.の表 1 参照）。

教室はマルチメディア教室を使用した。教師はパワーポイントで学習項目を示したり、ウェブ上の教材を見せたりすることができる。また、各自の机にコンピューターが配置されており、自分のコンピューターでウェブの教材を見ることも可能である。

3.4 NHK 『やさしい日本語』を実際に使用したときの利点と欠点

実際に教室で使用して気づいた、当教材の利点と欠点を以下の表 3 にまとめる。

表 3 NHK 『やさしい日本語』を教室で使用する際の利点、及び、欠点

利点	① スキットの内容の良さ - 感情を表す表現やイントネーションが多く含まれており、生徒たちが、実際に使う言語としての日本語を身近に感じられる。 - 敬体・常体の自然な使い方を示すことができる。 ② 独習用コンテンツの活用しやすさ - サイト上のクイズやテストを利用し、学習項目を復習できる。
欠点	① 一覧性の低さ - サイトでは、新出単語や学習項目をまとめて見せることができない。 ② 学習項目の定着させにくさ - サイトや教科書で使用している表記が漢字かな交じりとローマ字のため、ひらがなを覚えさせにくい。 - 文型を定着させるための練習や、コミュニケーション活動のモデルがない。

利点①に挙げたように、スキットにはストーリー性があり聴取者に興味を持たせる内容となっており、登場人物の発話が生き活きとしているため⁽²⁾、彼らの言い方をまねて発話を繰り返すだけでも充実したコミュニケーションを行うことができた。ひらがなをなかなか覚えられな

い生徒でも、スキットの台詞を自分なりにまねて発話することは楽しかったようだ。コースの学期末には発表会を行い、スキットに基づいた寸劇をグループで演じることにしたが、これは全員で楽しむことができるプログラムとなった。

また、生徒への説明はやや難しいが、スキットの会話は常体と敬体が自然な形で提示されている。例えば、主人公の留学生は、日本人の友人に対しては常に敬体を使っているが、ひとりごとのように対人コミュニケーションにかかわらない発話のときは常体で話している。日本語の教師は教室では留学生たちに対して敬体を使っているが、「地震だ」「机の下に入れ」等、緊急時は常体で発話している。ポライトネス理論（Brown and Levinson 1987）の観点も取り入れ、敬体と常体の使い分けを工夫して作成したものと思われる。

利点②に関しては、3.1 で述べたようにこのサイトは独習を想定しているせいか、知識を確認するためのクイズやテストが多く用意されている。教室でもこれらを用いて、学んだことをゲームのように楽しく復習することができた。

欠点の①と②で挙げたことは、教師側の負担にかかわってくる。学習が進むと、生徒も教える側も日本語で様々なコミュニケーションをしたくなるため、文法項目や語彙をどのように増やすかということが課題になった。また、学習項目の定着やコミュニケーションのための活動をどう行うかを検討することや、既出単語の一覧表・既習内容確認のための宿題といった補助教材の作成が必要になった。

3.5 NHK『やさしい日本語』を教室で使用する際に工夫したこと

州立大学日本語科の学生たちやリオ在住の日本人ボランティアが授業に参加することで、当教材だけでは足りない部分を補うことができたと考える。このような参加者は1回の授業に2人から4人おり、全員、ポルトガル語も日本語もわかる人であった。教える側の人材を増やすことで、生徒たちの状況を把握し、学習項目についての説明を補ったり、必要があれば語彙を増やしたりすることが行いやすくなった。参加者にはペア活動にも一人ずつ付いてもらい、コミュニケーション活動を補助してもらった。日本語科の学生は教職科目の履修者が多かったため、教室活動の内容を考え、提案してもらうこともできた⁽³⁾。

また、授業の見学レポートを出してもらったり、期末に意見交換会を設けたりして、参加者が授業の改善点を挙げやすい状況を心がけた。

4. コースの設計・運営と使用教材に関する考察

NHK『やさしい日本語』について、教室で使用する際の利点を改めてまとめると、ウェブで公開されているため手軽にアクセスできる点、生き活きとした日本語が学べる点が挙げられる。欠点としては、学習内容を定着させるための活動や補助教材を作成しなくてはならず、教師の

負担が大きいことである。また、話題シラバスであるため、文法的な学習項目を積み上げたい場合はそれが行いにくい。

当教材を実際に使用したことで気づいた点を、コースの目標設定、人的資源の活用、話題シラバスとタスクの併用、という3点から述べる。

①コースの目標設定

当教材を教室での使用や活動に合わせるのが難しかったのは、コースの目標設定と学習者のニーズが異なった点によると思われる。3.2 ではこの教材の利点として、初級の内容がコンパクトに扱われているということを挙げた。文法項目や語彙はごく基本的なものを扱っているため、コースの目標を「日本語初級の知識をある程度持つこと」とするならば、適切な教材であるだろう。しかし、学習が進んで日本語でのコミュニケーションを十分に行いたくなると、この教材に基づいて活動するには工夫が必要になる。コース設計では最初に学習者のニーズを把握するが（田中・斎藤 1993）、当コースは教職課程の学生が研鑽を積むことを目的としたプロジェクトの一環であったため、学習者のニーズ分析が十分ではなかった可能性がある。

②人的資源の活用

教材に足りない部分を補ったのは、州立大学日本語科の学生たちやリオ在住の日本人ボランティアといった人的資源であった。NHK『やさしい日本語』が扱う内容のコンパクトさは、教える側の負担になるとも言えるが、一方で、受講者に合わせて文法項目や語彙を増やしやすいうい面があると考えられる。小山・岩元（1999）は話題シラバスの利点として、語彙や表現を効果的に増やすことができること、学習者のニーズに合わせてやすく知的好奇心を満足させやすいことを指摘している。ポルトガル語も日本語もわかる人たちは、受講者のニーズにあわせて対応できる人材と言えよう。このような人材にコース運営にかかわってもらえたのは収穫であり、今後のコース設計、運営の際にも深めていきたい点である。

③話題シラバスとタスクの併用

当教材の利点を重視して中等教育の課外授業で使用するならば、改善点として、タスク（Can-do）を受講者に示すことが挙げられるだろう。初級クラスで話題シラバスを用いた例を見ると、タスクも併用している（北川 2006、Bourke2006）。積み上げ方式になっていない文法項目を覚えるのは難しいが、話題に基づいたタスクが提示されれば、それらを学ぶ理由がはっきりして学習に取り組みやすくなると思われる。

最後に、ネット環境の整った教室でないと、この教材の利点がわかりにくいことにも触れたい。冊子の教科書は、ウェブサイト に比べて解説が少ないため、教師が丁寧に説明する必要が出てくる。また、スキットのアニメーションはダウンロードすることができないため、オフラインでは受講者に絵を見せることができない（音声のみを聞かせることは可能）。このコースでは幸いにもマルチメディア教室を使用できたので、教材を十分に活用することができた。

5. おわりに

教材選びは、はじめに述べたように、コース設計の要であるシラバス・デザイン（田中・斎藤 1993）にかかわるが、使用してから気づく教材の利点、及び、欠点もある。この教材の場合、スキットに感情を表す表現やイントネーションが多く含まれ、生徒たちがそれを楽しみ、実際に使う言語として日本語を身近に感じたことは、実際に使用して初めてわかったことである。また、一般論として、コースを始める前に十分に教材分析を行ったとしても、受講者がコース運営側の狙い通りに反応するとは限らない。

使用教材を決める観点はいくつかあり、コース開始前に最善と思われる教材を採用したとしても、課題が出てくるであろう。CEFET での課外コースでは、受講者が手に入れやすく自習しやすい教材であることが優先され、話題シラバスという側面の検討が不十分であった。しかし、人的資源を活用することで、教室での使用に合わせることができた。コースを運営しながら、教材の利点を生かして欠点を補う仕組みをつくることが大切であると思われる。

〔注〕

- ⁽¹⁾ リオ・デ・ジャネイロ州立大学における東京外国語大学 Global Japan Office の活動内容は次のサイトで読むことができる。「リオ・デ・ジャネイロ州立大学 GJO 活動日誌」<https://tufts-sgu.com/gjo/gjo-rio/journal-rio/>
- ⁽²⁾ 2017 年 7 月にサンパウロで行われた日本祭りにて、担当者（株式会社日本国際放送・吉野実氏）から伺った話によると、スキット録音の際には声優の発話に非常に気を使ったそうである。
- ⁽³⁾ レポートに「音楽やアニメを見せたら、もっと興味を持つと思う」と書いた学生に、良いコンテンツがないかを尋ねたところ、授業で使う動画を準備してくれた。その様子は上記「GJO 活動日誌」に書いてある。

〔参考文献〕

- 北川逸子（2006）「トピックシラバスによる初級日本語クラスの実施とその試行錯誤」『龍谷大学国際センター研究年報』15 号、3-20.
- 小山悟・岩元由起子（1999）「初中級レベルにおけるトピック・シラバス導入の効果」『日本語教育方法研究会誌』第 6 巻第 1 号、34-35.
- 田中望美・斎藤里美（1993）『日本語教育の理論と実践』、大修館書店
- 日本語教育学会（2016）『シンポジウム：中等教育段階の日本語教育が果たす役割と課題 ―21 世紀を生き抜く人間教育に取り組む世界の日本語教師からの提言―』バリ日本語教育国際研究大会（ICJLE）2016 配付資料
- Bourke, James M. (2006). Designing a Topic-Based Syllabus for Young Learners. *ELT Journal*, 60:3, pp. 279-286.
- Brown, P. & Levinson, S. C. (1987). *Politeness: Some Universals in Language Usage*. Cambridge, New York: Cambridge University Press.